



東よか干潟

佐賀県南部に位置し、東与賀干拓（大授揚）の南側、有明海湾奥に広がる泥干潟です。

筑後川・嘉瀬川・六角川などから粘土粒子や栄養分が干潟にたくさん供給されます。

川から供給される粘土粒子と有明海の潮汐作用によって干潟は今も広がり、栄養分は多様なたくさんの生き物の命を育んでいます。

特に、クロツラヘラサギ・ズグロカモメなど絶滅危惧種を含む水鳥たちの国内有数の中継地（旅鳥）や越冬地（冬鳥）になっています。

このため、2015年（平成27年）5月に、国際的に重要な湿地として、ラムサール条約湿地に登録されました。

有明海（東よか干潟）の特徴（観察ポイント）

◆ 有明海の干潟風景

- ・干満差 日本一 最大約6m
- ・干潟面積 日本一 約188K㎡（全国の干潟面積の約4割）
- ・今も広くなるとともに、高くなっている干潟（干潟に埋没する港跡の防波堤で実感）
- ・日本一の生産量を誇る海苔養殖風景（10～3月）

◆ 東よか干潟で暮らす水鳥や生き物

- ・日本一のシギ・チドリ類の渡来地（9月頃～翌年の5月頃）
2020年度春期（大授揚）最大個体数14,763羽
出典：モニタリングサイト1000シギ・チドリ類調査2020年度春期調査報告
- ・干潟が育む多様な生き物（水鳥、魚、カニ、貝など）
（ムツゴロウやワラスボなど有明海・八代海固有種も生息）

◆ 日本一のシチメンソウ（塩生植物）の群生地【東よか干潟】

東よか干潟の風景



大潮満潮時の
シチメンソウヤード

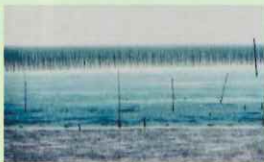
有明海の干満差
最大 約6m
(日本一)

干潮時には、
5～7km先まで
広がる干潟

有明海の干潟面積
約188K㎡(日本一)



有明海の
海苔養殖
生産量
(日本一)



ムツゴロウの
タカッポ漁



2017年7月の九州北部豪雨による漂着物とその撤去作業



干潟の清掃活動



干潟の観察会

東よか干潟周辺に渡来する野鳥（干潟の後背地を含めると170種類以上が記録されています。）

一番多く渡来するシギ・チドリ類は、繁殖のため渡去する（渡る）6月～8月の期間を除き、観察できます。
シギ・チドリ類は泳げないため、潮位が5m以上の満潮前後1～2時間が、海岸近くで観察できます。

◆旅鳥（東よか干潟を中継地としてエネルギー補給）



◆冬鳥（東よか干潟で越冬）



◆漂鳥
(日本国内を移動)



◆留鳥
(同じ地域で繁殖)

一年中同じ地域で見られる

絶滅危惧区分は、環境省レッドリスト2020による



クロツラヘラサギ(トキ科) 冬鳥
絶滅危惧ⅠB類(EN) 全長74cm
食性: 魚・カニ・エビ など



ズグロカモメ(カモメ科) 冬鳥
絶滅危惧Ⅱ類(VU) 全長32cm
食性: カニ・エビ・小魚 など



オオソリハシシギ(シギ科) 旅鳥
絶滅危惧Ⅱ類(VU) 全長41cm
食性: カニ・エビ・貝・ゴカイ など



ツクシガモ(カモ科) 冬鳥
絶滅危惧Ⅱ類(VU) 全長63cm
食性: カニ・エビ・海藻・落穂 など



ハマシギ(シギ科) 旅鳥・冬鳥
準絶滅危惧(NT) 全長21cm
食性: カニ・エビ・貝・ゴカイ など



ダイシャクシギ(シギ科) 旅鳥・冬鳥
全長60cm
食性: カニ・エビ・貝・ゴカイ など



ダイゼン(チドリ科) 旅鳥・冬鳥
全長29cm
食性: ゴカイ・カニ・エビ など



シロチドリ(チドリ科) 留鳥・漂鳥
絶滅危惧Ⅱ類(VU) 全長17cm
食性: カニ・エビ・ゴカイ・貝 など

東よか干潟の生き物

絶滅危惧の区分は、環境省レッドリスト2020
※は、環境省版海洋生物レッドリスト2017による



ムツゴロウ (ハゼ科) 全長15~20cm
絶滅危惧Ⅱ類 (EN) 食性: 干潟の珪藻



トビハゼ (ハゼ科) 全長10cm
準絶滅危惧 (NT) 食性: カニ・ゴカイなど



ワラスボ (ハゼ科) 全長40cm
絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 食性: カニ・貝・魚



シオマネキ (スナガニ科) 甲幅3.5cm程度
絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 食性: プラクトン・デトリタスなど



アリアケガニ (ムツハリアケガニ科) 甲幅2cm程度
※絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 食性: プラクトン・デトリタスなど



クシテガニ (ハシゲガニ科) 甲幅3cm程度
※準絶滅危惧 (NT) 食性: 生物の遺骸・海藻など



フナムシ (フナムシ科) 全長5cm
食性: 藻類や生物の死骸 (海岸の掃除屋)



ヤベガワモチ (ドコガワモチ科) 全長6cm
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN) 食性: プラクトン・デトリタス

※デトリタス: 生物遺体や生物由来の物質の破片や微生物の死骸、その排泄物を起源とする微細な有機物粒子

東よか干潟の塩生植物

絶滅危惧の区分は、環境省レッドリスト2020による



日本一の
シチメンソウ
(ヒユ科)
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
群生地
8月の緑 (花の時期)

紅葉した
シチメンソウ
群生地
10月下旬~
11月初旬が見頃



シチメンソウの季節変化 1月 (発芽)・5月・8月 (緑・花)・11月 (紅葉)



ホソバハマアカザ (ヒユ科) の季節変化 2月・7月・11月 (紅葉)



ウラギク (キク科) 準絶滅危惧 (NT)



フクド (キク科) 準絶滅危惧 (NT)

- 観察ウォーキングモデルコース**
- ◆ 2kmAコース
東よか干潟「ひがさす」見学+A+Dゾーン観察
 - ◆ 3kmA・Bコース
東よか干潟「ひがさす」見学+A+B+Dゾーン観察
 - ◆ 3.5kmA・Cコース
東よか干潟「ひがさす」見学+A+C+Dゾーン観察
 - ◆ 5kmA・B・Cコース
東よか干潟「ひがさす」見学+A+B+C+Dゾーン観察

※東よか干潟ボランティアガイドが案内することもできます。
また、ガイドと一緒に観察しながら干潟の清掃活動もできます。
※ガイドは無料ですが、東よか干潟ビジターセンター「ひがさす」への事前の申し込みが必要です。

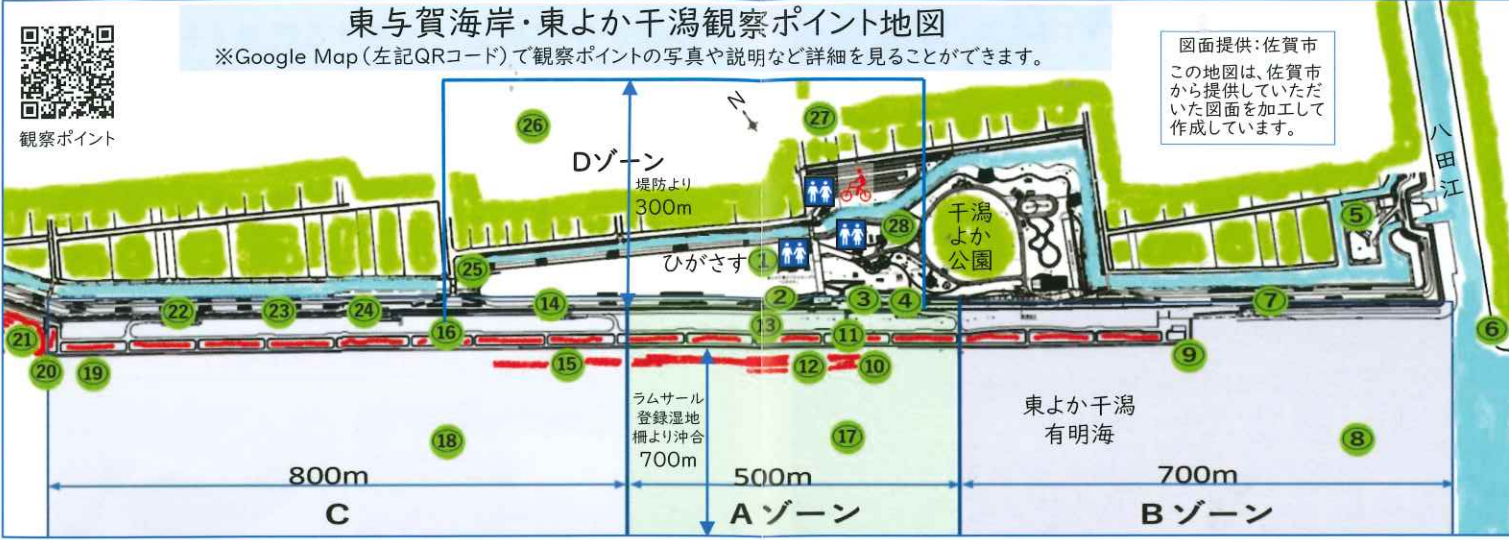


ガイド事前申込先

観察ポイント

①～②⑧:観察ポイント番号
A～D:観察ゾーン

- | | |
|----------------------------|-------------------------------|
| ①D 東よか干潟「ひがさす」 | ⑤C 干潟に埋没する港跡の防波堤 |
| ②A 展望台(階段、双眼鏡3台設置:無料) | ⑥C 塩生植物(ウキクサ、フクド、ホリハ、ハマカサなど) |
| ③A シチメンソウヤード出入口(階段)展望台 | ⑦A 干潟の風景(潮位変化、カサネ、魚、野鳥、海苔養殖) |
| ④AB シチメンソウヤード出入口(スロープ)展望台 | ⑧C 野鳥観察(クロツラヘラサギ、ハマシギ、ダイゼンなど) |
| (車椅子と子供用双眼鏡各1台設置:無料) | ⑨C 干潟の生き物(ムツゴロウ、トビ、ハゼ、カニなど) |
| ⑤B 東与賀(大授揚)排水機(ポンプ)場 | ⑩C 干潟スキー(漁師)出入口(タカツボ漁など) |
| ⑥B 広江港口灯台(高さ7.6mの赤い灯台) | ⑪C シチメンソウ群生地(ヤード西側の柵外) |
| ⑦B シチメンソウヤード出入口(スロープ)展望台 | ⑫C シチメンソウヤード出入口(スロープ)展望台 |
| ⑧B 野鳥観察(クロツラヘラサギ、ダイゼンなど) | ⑬C 東与賀海岸堤防(高さ:東京湾平均海面+7.5m) |
| ⑨B 干潟スキー(漁師)出入口(タカツボ漁など) | ⑭C シチメンソウヤード出入口(スロープ)展望台 |
| ⑩A 干潟の生き物観察(ムツゴロウ、カニ、野鳥など) | ⑮D コスモス畑(見頃は、10月下旬～11月上旬) |
| ⑪A シチメンソウ観察ヤード(トビ、ハゼ、カニ、貝) | ⑯D 干拓地(大授揚:東与賀干拓で最大規模) |
| ⑫A シチメンソウ群生地(ヤード南側の柵外) | ⑰D シギの恩返し米栽培水田(冬水田んぼ) |
| ⑬A 塩生植物(シチメンソウ・ホリハ、ハマカサなど) | ⑱D 干潟よか公園(紅葉、遊具、おもしろ自転車) |
| ⑭A シチメンソウヤード出入口(スロープ)展望台 | |



- ◆ ラムサール条約
特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約(国内で53ヶ所登録)
- ◆ 目的
国際的に重要な湿地とそこに生息する水鳥をはじめとした生態系の保全と人類による持続可能な利用(ワズユース)
- ◆ 3つの柱

- 【保全・再生】
生活を支える大切な自然環境としての湿地(資源)(経済・文化・科学・観光)
- 【賢明な利用(ワズユース)】
湿地から得られる恵みを利用しながら、人と自然環境が持続的に共存していくこと
- 【交流・学習】
保全・再生や賢明な利用推進に向けての取り組み(湿地の重要性を学ぶ)・湿地に関する情報共有・連携・協力する仕組み

① 東よか干潟ビジターセンター「ひがさす」案内

◇開館時間
9:00～17:00

◇休館日
月曜日(祝日の場合は翌平日)
年末年始

◇入館料 無料

◇展望フロア
地上13mからの360°パノラマ展望

◇展示エリア
・干潟と野鳥ゾーン
・生きものゾーン
・干潟と暮らしゾーン
・干潟のシアター

◇交流スペース
・研修室・案内受付
・干潟のライブ映像
・ひがさすショップ(地元産品・コーヒー)

⑨ ワラスボ掻き漁師との出会いと交流

⑪ シチメンソウの種取り活動

展望台【双眼鏡設置:無料】

⑰ シギの恩返し米栽培水田(冬水田んぼ、魚道・生き物観察)

減農薬の特別栽培米「夢しずく」を、生物多様性・環境保全・循環型農業などに配慮して栽培。ブランド米「シギの恩返し米」として「ひがさす」の売店などで販売しています。

シギの恩返し米

冬水田んぼでエサ獲りをするツルシギ

クリークと水田を生き物が行き来する魚道

⑱ 紅楽庵(干潟よか公園)

この地方独特の漏斗谷造りの萱葺き民家(江戸時代後期の民家を再現したもので、台風にも強く、屋根の漏斗谷に集まった雨水を、屋根裏の樋で屋外へ排出し、甕に貯めて利用したといわれています。)

⑮ 干潟の高まりがわかる港跡

筑後川などから運ばれてきた粘土粒子が有明海の潮汐作用によって、今も干潟が広がることも高くなっています。干潟に埋没する港跡の防波堤で実感できます。

⑬ ⑭ 東与賀海岸堤防と干拓地

1934年に竣工した干拓地(大授揚)造成時にできた高さ7.5mの堤防です。
耐震補強工事(1998年～2001年)がシチメンソウ群生地にかかることから、地元の意見を聞きながら、現在のシチメンソウヤードへ移植したといわれています。
大授揚は、東西約2.8km 南北約1.2km 300ha余りの東与賀最大の干拓地で、米や麦などが織りなすパッチワークのような四季折々の風景が楽しめます。

東よか干潟へのアクセス



この東よか干潟観察ウォーキングガイドは、佐賀市の令和3年度東よか干潟ワイズユース推進事業により、NPO法人みなくるSAGAが編集・印刷したものです。

監修：日本野鳥の会佐賀県支部・佐賀自然史研究会

問い合わせ先

NPO法人みなくるSAGA

(鳥瞰図作画：平山 写真撮影：山口)

